

白石の新時代を目指してー

橋上駅舎が完成へ

＝JR白石駅＝

白石区民待望のJR白石駅橋上駅舎が、平成23年春に、完成します(＝写真右)。

同駅の南側・北側は、歩道橋はあるものの実質的に分断され、改善を求める声が以前から高まっていました。森しげゆきも谷沢俊一市議と連携し、そうした声を各方面に伝え、働きかけてきました。



プロフィール

- 昭和28年6月12日 香川県坂出市生まれ
 - 昭和47年 国立詫間電波高校(現高専)卒業
 - 昭和56年 神戸大学経済学部卒業
 - 平成6年 時事通信社退職(22年間勤務)
 - 平成7年 北海道議会議員初当選
 - 平成19年 同 3期目当選
 - ◆公明党北海道本部 代表代行
 - ◆北海道議会公明党議員団 幹事長
 - ◆北海道議会 新幹線・総合交通体系対策特別委員会委員長
 - ◆北海道議会 保健福祉常任委員会理事
- ◎妻と2女の4人家族

新駅舎は南北両側から直接、改札口にアクセスでき、エレベータなどを備えたバリアフリー駅舎で、南北を自由に行き来できる通路も設置されます。

区役所の移転も決まる

白石区役所は交通アクセスが悪く、施設の老朽化も進んでいたことから、「より利用しやすい場所に」との声が沸き起こっていました。

森しげゆきは谷沢市議と連携し、この区役所移転についても、早くから働きかけていましたが、先ごろ、地下鉄白石駅前(＝写真左)に区役所・区民センター・

保健センター・保育所などの複合施設が建設されることが決定しました。

新しい施設は平成27年度の供用開始を目指しています。

森しげゆき事務所

〒003-0025
札幌市白石区本郷通2丁目北3-21
TEL 011-860-4151/FAX 011-865-9043
URL <http://kmplan.net/usr/mori/>
E-mail sigemori@seagreen.ocn.ne.jp

発行:森成之/編集:ケー・エム・プラン

もり しげゆき 通信



2010～2011

冬号

ドクターヘリ、 北の空を駆ける!



出動、年間1,000回以上に

2005年、札幌に配備されたのを皮切りに、2009年には道北の旭川、道東の釧路に配備され、道内のドクターヘリは3機体制が確立されました。この間、森しげゆきは議会等で再三その有用性を訴え、全道の空をカバーできるよう尽力してきました。2010年9月までの1年間の出動回数は全道で1,049回を数え、前年の2.5倍となっています。

“ヘリ”から“ジェット”へー

一方で、2010年9月、札幌・丘珠空港を拠点に“ドクタージェット”の試験運行が1カ月にわたり行われました(写真下)。より「速く、広く」北の空をカバーできるとして、ヘリとジェットの連携に道民の期待が寄せられており、森しげゆきも本格的導入に取り組んでいるところです。

さらに、搬送時間のいっそうの短縮を図るため、高速道路から札幌市内の第3次救命救急センター病院に直結するアクセス道路の整備などにも力を注いでいます。



道内3機体制を確立

森しげゆきの取り組みが実る



豪雨被害の天人峡を緊急視察 翌日には道に支援を申し入れ

8月23、24の両日、道内は豪雨に見舞われ、各地で崖崩れなどが発生しました。森しげゆきはただちに被災地の一つである天人峡温泉に駆け付け被災状況を視察、今後の対策について現地関係者の声を聞きました。

翌25日にはただちに副知事のもとを訪れ、緊急の対策を要請。各地の被害状況を伝えるとともに、決壊箇所早期復旧と今後の災害防止に向けた調査などを申し入れました。



“鉄陸両用車両”DMVを視察



10月23日、森しげゆきは党の井上義久幹事長らとともにJR苗穂工場を訪問、“鉄陸両用車両”として実用化が待たれているデュアル・モード・ビークル(DMV)を視察しました。

同車両は鉄道路線と一般道路を車輪を切り替えて走行することが出来、利用客の少ない地方路線で実用化が待たれています。

“TPP”巡り関係者と懇談

11月1日、森しげゆきは党道本部が開いた「農林水産業政策懇談会」に出席、政府が参加を検討している環太平洋戦略的経済連携協定(TPP)について関係者と意見交換をしました。

農業・水産の各業界とも、TPPに参加し関税が撤廃されれば、道内業界は深刻な打撃を受けるとして、慎重な対応を国に働きかけるよう求めました。



特集・医療体制の充実をめざして—その②

道立こども総合医療・療育センターが開設

2007年9月、小樽市銭函にあった小児総合保険センターと、従来の札幌療育センターが、一体化となった「道立こども総合医療・療育センター(愛称:コドモックル)」が、札幌市手稲区に開設されました。これは従来施設の交通の便や施設の状況から、森しげゆきが「一本化し、より近代的な施設を」とかねてより訴えていたものです。

次の目標として、子どものための第3次救命救急センター設立に取り組んでいるところです。

医療体制や介護の充実は森しげゆきが一環して取り組んできた重要なテーマです。さまざまな視察や調査をもとに政策を立て、それを着実に実現して参りました。ここでは3期目の取り組みの一端をご紹介します。



■まだまだ、こんな実績も——■

千歳空港・新国際線ターミナルがオープン



2010年3月、新千歳空港にこれまでの5倍の規模となる新しい国際線旅客ターミナルがオープンしました。森しげゆきはこれまで旧施設の受け入れ体制の不備を議会で再三指摘するなど、施設の拡充を訴えていました。

2009年9月、養殖のホタテ貝に大量の付着物が付いているのを視察した森しげゆきは、その6日後に、国に支援を働きかけるよう道に対応を要請。これを受け農林水産省は、駆除処理費用を補助することを直ちに決定しました。



介護の問題で“市民の声”を直接にお聞きしました

2009年11月、介護に関する市民の皆様の“生の声”をお聞きしたく、札幌市厚別区の新札幌駅前、アンケート調査を行いました。

このときの結果をもとに、介護問題に関する提言を道に行いました。

駐禁除外指定の範囲拡大

直接的な医療の問題ではありませんが、道警がこれまで下肢不自由者の1級～5級の方々に交付していた駐車禁止除外指定車標章が、1級～3級の1までに制限された問題で、対象から外れた方がたいへん困っているとの声を聞いた森しげゆきは、2009年1月の総務委員会で強くこの問題を訴えました。

道警はこの質問に対し、あらためて従前の交付対象まで拡大していくことを約束しました。

ホタテ貝付着物の除去費用を補助

